

『サッカーにおける競技力向上について』

サッカー専門部 さいたま市立浦和高等学校 池田一義

◇はじめに

選手の競技力を向上させるには、人間性を高めることが必要不可欠であることは言うまでもない。この事を多くの指導者が理解した上で、サッカー本来の魅力を様々なアプローチにより体感させることが出来れば、選手自らが競技力を向上させるための努力を行うものと信じている。

ここでは、トレーニングセンター（以下トレセン）の活動とリーグ戦に触れ、サッカー競技における競技力向上について述べたい。

◇「個人とチームの強化」(U-16)

個人の強化として、U-12～U-16 まで月 2 回程度トレセンを開設している。各カテゴリーには地区トレセンと県トレセンがあり、優秀な選手はナショナルトレセンに招聘されトレーニングキャンプを行う。U-15 以上は日本代表選手が選考され、日本代表 U-15/16/17/18 は海外遠征等を経験し、世界大会出場、上位進出を目指す。

埼玉県のトレセン活動は、コーチライセンスを取得した者が U-13～U-16 までの 4 年間、一貫性を持った指導を行い、関東各都県とのリーグ戦や国体を通じて選手の育成強化にあたっている。指導者は 2 種（高体連）・3 種（中体連・町クラブ）・J リーグチームのコーチで構成し情報交換を行っている。トレセンは個の育成に主眼を置いており、県トレセンというチーム作りを行っているわけではないが、リーグ戦に向けての戦い方をトレーニングで示し、それが国体チームの戦い方となっている。また、外部講師による栄養等の指導も定期的に行い、ピッチ上だけでなく各自の生活の中にもアプローチしている。

◇「優秀な個人の発掘」(U-17)

U-16 で育成強化としてのトレセン活動は終わるが、高校 2 年次に関東 U-17 キャンプが行われ、各都県の優秀な高体連選手が 30 名程度招集されている。J ユースの選手以外で将来有望な選手の発掘を行い、U-17/18 の代表へと繋げている。

◇指導者の資質向上

指導者の資質が向上しなければ選手の向上はない。S F A 2 種技術委員会では J F A 主催の各種研修にコーチを派遣し研修させ、それを県内のトレセンコーチに伝達している。また、個人の研修として J F A のコーチライセンスを取得させている。高校年代のコーチとしては B 級コーチ養成講習会で学んだ人材が望ましいため、基本的にコーチ全員に取得させている。地区トレセンのコーチに対しては、S F A 指導者養成インストラクターや上級コーチライセンス保有者を指導者として実技研修を行い資質の向上に努めている。

◇女子のトレセン活動

女子ではU-14まではナショナルトレセンにつながるが、それ以降は県内の活動のみになってしまう。選手の選考についても各チームからの推薦など、必ずしも本来の活動目的に合ったものになっているとは言えない。活動拠点や日程調整など課題は山積みであり、継続性を持って活動できないことに担当スタッフが苦勞しながら指導にあたっているのが現状である。

◇リーグ戦の導入

JFAからのトップダウンによるリーグ戦導入から数年経つ中、埼玉県では「高体連サッカー専門部に加入した選手に3年間サッカーを楽しむことが出来る環境を与える」ことを理念としてリーグ戦を展開している。トレセン活動による個の育成も、各チームにおける日々のトレーニングが基盤となるので、M-T-Mによるゲームへの準備に身を置く中で選手も指導者も成長するものとする。

毎日の練習に「観る→分析・判断→実行」のサイクルが自動化されるようなトレーニングプログラムを構築し、日常から自立と責任を育む働きかけを重視したい。

U-18リーグは12月まで試合があるため、受験を控えた中での活動に戸惑いや難色を示す学校が存在するのも事実だが、各校の特色に応じたプレー環境を与え、その学校独自の文化を構築していくことに指導者としてチャレンジしていただきたい。

リーグの運営としては、高体連主催ではないため公認欠席とはならず、また、高体連主催の各種大会との関係から過密スケジュールとなり、選手、指導者に負担をかけていることを踏まえ、その改善に向けた努力はしなければならない。

◇おわりに

埼玉サッカーが全国の舞台で名を轟かせなくなってから、随分と多くの時間を費やしてきた。その間には優秀な指導者の方々、能力のある選手が多数存在していたにもかかわらずである。若手の指導者も増えてきた今、指導者間のコミュニケーションを良くとりながら、選手の競技力向上に向け惜しみない努力を続けなければいけない。

冒頭にも述べたが、選手自らが自分を成長させようという気持ちになる環境づくりと指導者としてのかかわり方を磨き上げることに励み、プレーヤーズファーストを合言葉として「サッカー王国埼玉」の復活を果たしたい。

最後に、「日本サッカーの父」と称されたデットマール・クラマー氏（元日本代表コーチ）が9月17日に逝去された（享年90歳）。彼の残してくれた「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする」という言葉を胸に、教育者としても彼らの成長にかかわっていける喜びを感じながら誠実に選手と向き合っていきたい。